

# トランプ氏と「蜜月」強調

## 首相訪米

安倍晋三首相は今回の訪米で、トランプ大統領と2日間、計11時間以上をともに過ごした。外交・通商政策をテーマにした14日の衆院予算委員会の集中審議では、「蜜月」ぶりを世界にアピールした両首脳の間で、どんなやりとりがあったのかに与野党の関心が集まった。  
【光田宗義、影山哲也】

## 米の役割 直接「指南」

各国首脳の中でトランプ氏と最も長い時間を過ごしたことは、首相の自信になったようだ。衆院予算委で自民党の大野敬太郎氏から「トランプ氏とどう向き合うか」と問われた首相は「自由世界のリーダーとしての役割を果たしてもらわなければ世界はより混乱し、不確実性が一層増す」と直接「指南」した。

とを明かした。そこには、主要7カ国(G7)の首脳の中でドイツのメルケル首相が長く続いている在任期間が長くなっただけでなく、トランプ氏とどんな対話をしたのか、ぜひ聞かせてほしいという要望は(各国から)たくさん来ている」と述べた。

日米両首脳は今後、多国間会議の場で毎回

## 国際情勢重視 経済避ける

首相とトランプ氏は今回、国際情勢について幅広く意見交換した。日米首脳会談の直前にトランプ氏が中国の習近平国家主席と電話で協議したことを踏まえ、首相は「中国にどう対応していくかは今世紀最大のテーマだ」と提起し、トランプ氏と対中認識を共有しようとした。

イスラエル・中東情勢もテーマになった。トランプ氏が在イスラエル米大使館のエルサレム移設に言及していることについて民進党の前原誠司氏が見解を述べた。首相は「トランプ氏がネタニヤフ首相にどうしているかを臨

日本がファーストステップイオリティー(第一優先順位)を持つと確約できた」と強調した。

事前に批判の声もあったトランプ氏とのゴルフについては「ゴルフを一緒にすると性格が分かる。トランプ氏はルールやマナーをしっかりと守っていた」と説明。トランプ氏が中東・アフリカ諸国に對

する入国制限で国際的に波紋を広げていることを踏まえ、「キャデューパーはメキシコ系とキューバ系の人だったが、(トランプ氏は)ファーストステップと呼びかけ、気軽に話をしていた」と擁護した。



10日、米大統領専用ヘリの機内で笑顔のトランプ大統領(左)と安倍首相(同大統領のツイッターより)

首相だが、日本側が事前に最も懸念していた経済分野については慎重な答弁に努めた。

首相が会談で「トヨタ・カマリの現地調達率は75%で、『ビッグ3』よりもたくさん米国の部品を使っている」と説明したところ、トランプ氏は「やはり日本車はいいな」と語った。その後のワーキングランチでも重ねて話題にしたが、「トランプ氏から反応は一切なかった(公明党の岡本三成氏への答弁)という。

日米間の自由貿易協定(FTA)についてもトランプ氏から具体的な要請はなかった。ただ、14日の自民党合同会議では「過去の日米経済摩擦をみると、米国内に押し込まれて難しい局面が出ている」と出席議員から不安の声が上がった。

10日午後	日米首脳会談	大統領が首相を出迎え抱擁
	共同記者会見	首相「大統領選出は民主主義のダイナミズム」、大統領「非常に気が合う」と互にエール
	ワーキングランチ	計27ホールをプレー。大統領「すばらしい時を過ごしている」、首相「率直に話をするのができた」
	夕食会	大統領「私もメッセージを出そう」
11日午前	ゴルフ	そろって声明を発表。大統領「日本を100%支持する」
	ゴルフ	
	北朝鮮が新型の中距離弾道ミサイルを発射	
	夕食会	
11日午後	共同記者発表	
	共同記者発表	

※日時は現地時間

安倍晋三首相とトランプ米大統領の2日間

### 「核」明記は1975年以来

外務省は14日、自民党会合で、日米首脳共同声明に米国の抑止力として「核」が明記されたことについて、1975年8月の三木武夫首相とフォード米大統領(いずれも当時)の会談以来だと説明した。

75年の首脳会談では、共同新聞発表に「核兵力であれ通常兵力であれ」と日米安全保障条約に基づく米国の日本防衛の意思が記された。当時、日本国内では核拡散防止条約(NPT)批准を巡る論争が起きており、米国の「核の傘」を明示する必要があったという。その後は被爆国として核廃絶を掲げる日本側が消極的になったとみられる。

29. 2. 15 M